

平成26年度「県内大学生が創る奈良の未来事業」  
本審査に参加する政策提案一覧

本審査参加提案

No.	政策提案の名称	在籍する大学等の名称	代表者の学部・学科・学年及び氏名	政策提案の概要	「主な政策集」のうち該当する政策課題
1	奈良栄養クリニック設立計画	奈良女子大学	生活環境学部・食物栄養学科4年 祝迫 景子	県民の半数以上が健康に対する不安や生活習慣病を抱えている。生活習慣病は食生活との関連が深いため、問題背景として適切な食に関する知識や指導の不足が推測される。そこで、住民の健康への不安の軽減や健康寿命の延長に貢献するため、奈良栄養クリニック設立を提案する。専任となる管理栄養士ポストを設け、サポートスタッフとして食生活改善推進協議会員や栄養士・管理栄養士過程のボランティア学生を活用し、栄養相談、栄養教室、県内市町村の健康増進企画への協力、県内企業とのメニューの共同開発、認知症予防教室等を行いながら、施策を拡充していく。	6 健康づくりの推進 13 安心・安全の確保
2	楽しく健康！健楽(けんぎょう)農業で遊休地を有効活用	奈良女子大学	大学院人間文化研究科博士前期課程 土佐野 美裕	第一次産業を軸に、奈良県内の遊休農地、遊休地とその地域の労働力の有効活用を図る。近年、高齢者・若者の農業への関心が高まっており、市民農園参加者も増えている。その一方で、農業は就労者の高齢化・後継者不足により耕作放棄地が増えている。この事業では、高齢者や若者の農業への興味や意欲を労働力として捉え、遊休農地、遊休地を利用しつつ、補助金に依存しないビジネスモデルを創ることを提案する。また、学生が参加することによって、農業に対する新しい働き方、栽培・販売の新たな方法を提案する。	1 地域産業の支援・創出 3 県内消費の拡大 4 雇用対策の推進 5 農林業の振興 6 健康づくりの推進 16 暮らしやすいまちづくり 20 協働の推進 21 市町村への支援
3	萃点を灯すー春日奥山から未来への文化継承の地	奈良女子大学	大学院人間文化研究科住環境学専攻 大石 菜由佳	春日山原生林ーここは奈良・春日大社の奥山であり、敏に隣接した世界的にも稀な原生林帯である。この場における人間と自然との関係は、様々な信仰を始原とした文化の定着によって1300年以上の間支えられてきたが、世界遺産や都市公園、天然記念物といった制度的な枠組みによる「凍結的な保護」がなされているのが現状である。本提案は広大な人工林が形成されてきた歴史的経緯をふまえたうえで、自然と信仰に関わる伝統文化のあり方を、環境の「動態的な循環」の再生を通して現代社会に定位する試みである。	1 地域産業の支援・創出 11 文化の振興 14 景観・環境の保全と創造
4	将来日本を代表する健康長寿のまちへー若いからこそ生活習慣を変えてみようー	帝塚山大学	経済学部・経済学科2年 山岸 柚希	現在の若年層はほかの世代と比べ運動不足や偏食といった生活習慣が多い。こういった生活が続くと、生活習慣病にかかる可能性がある。これを防ぐには、若年層の生活習慣の改善が不可欠である。健康上の問題に直面することが少ないため、生活習慣を見直すきっかけがない。そのため、運動や栄養のイベントを実施し、生活習慣に関する知識の増やし、改善を促すことで、将来的に健康寿命が上昇すると考えられる。	6 健康づくりの推進
5	無病促菜ー野菜パワーで元気100%な奈良県へ！ー	帝塚山大学	現代生活学部食物栄養学科3回生 ヘルスチーム奈良代表 高瀬 美桜	奈良県民の野菜摂取量は全国的に見ても少ない。全世代で野菜摂取量を増加できるよう、中高生を対象にした出張事業や主婦・一人暮らしの人に向けた食育サイトの設置、働く世代・学生に向けた食環境の整備といった事業を行ない、県民一人ひとりの健康への意識を高め、奈良県の野菜摂取量を1日300g以上にし、長期的には1日350g以上を目指す。また、1世帯当たりの消費支出額が高いことから県民の消費意欲は高いと推察されるが、県内での商品購入にはつながっていない。これを野菜摂取量の増加を目指す事業の中で解消していき、経済の活性化につなげる。	3 県内消費の拡大 6 健康づくりの推進
6	最新4K映像による大和十二の映像詩の制作とWEB発信	帝塚山大学	文学部・文化創造学科1年 高井 盛也	2014年6月から4Kテレビの試験放送が始まりました。本提案は4Kビデオカメラを私たち学生が手に持って、国のまほろば・大和の社寺、祭礼、伝統産業、自然をこれまでにない超高精細映像により収録し、世界に向けWEB発信するものです。対象は、1月・若草山の山焼、2月・蔵元の日本酒の仕込み、3月・東大寺修二会、4月・吉野の千本桜、5月・當麻寺練供養、6月・奈良公園の子鹿誕生、7月・金峰山寺の蛙飛び、8月・春日大社の万燈会、9月・棚田の実り、10月・談山神社蹴鞠祭、11月・正倉院展、12月・都祁八柱神社の題目立を予定しています。	2 観光の振興 10 学びの支援 11 文化の振興 14 景観・環境の保全と創造 18 南部地域・東部地域の振興
7	地域と学生でつなぐ防災組織「ならぼう」事業	畿央大学	教育学部・現代教育学科4回生 東谷 晴日	若者を中心とした防災ネットワークの構築を通じて県民一人ひとりの防災意識の向上に結びつけることが、本提案の考える課題である。県内の各大学を拠点に「(仮称)奈良防災青年団」(通称:「ならぼう」)を設立し、関連機関等の指導・協力を得て防災学習や防災イベント、地域住民への普及活動等を行う。若者による役割の自覚と課題解決能力によって「自助」や「共助」の精神への理解を深め、地域の防災課題の明確化と対策の充実を通じて地域の安全性を高めていく。	10 学びの支援 13 安心・安全の確保